

アキール文庫の独立運動関連書籍は膨大な規模をもつ。その特徴はテーマの幅広さ、ヒンドゥー、ムスリムに関わらず指導者たちの著作、後年に著された伝記、書簡集、雑誌の特集号、現在では目にする機会がほとんどないパンフレット類を含む独立前の出版物などが多数含まれている点にある。また、広範なウルドゥー語文献群を見ると、インド・ムスリム史研究におけるウルドゥー語資料の重要性が改めて認識される。リプリントを含めた英領期のイギリス人による著作群は別として、パキスタン、インドの研究者によるものが多数を占め、インド・パキスタンの歴史研究の質と量を再認識させるものでもあるといえるだろう。

本稿では、コレクションの中の独立運動に関わる文献群を鳥瞰し、ムスリムの独立運動関連を中心に、特徴的なコレクションを取り上げて解題的に紹介することとする。

1. 独立以前の出版物、またはその 60-70 年代のリプリント

独立運動のさなかに出版された、アリー兄弟、あるいはヒラーファト運動関係、農民運動や社会主義運動の指導者に関する書籍がまとまって収集されている。آریہ سماج کی تاریخ : ابتدائ اصول، سرگرمیل اور بانی کی مختصر سوانح / مصنف، لالہ لاجپت رائے؛ نظر ثانی اضافہ و تنوین، سری رام شرما؛ مترجم، کشور سلطان۔ -- ترقی اردو بورڈ، ۱۹۷۷。「アーリヤ・サマージの歴史」(AQEEL||A||609||35) など、アーリヤ・サマージや、ヒンドゥー指導者についてのウルドゥー文献も含まれている。

Unity Talk Series No.1 *Gandhi -Jinnah 1937-1938*, Hero Publications, Lahore, 1944 (AQEEL||A||802||26)

[۱۹۴۴۔ جناح گاندھی گفت و شنید (ستمبر ۱۹۴۴) : مراسلات مع متعلقات]۔ -- مسلم لیگ پرنٹنگ پریس، ۱۹۴۴ (AQEEL||A||901||47)

ジンナーとガンディーの考え方を比較した書籍が何冊か収集されている。これはその中の、英語とウルドゥー語の例である。(AQEEL||A||802||26)は、1937-38年という時点がとられている。1937年といえば、中央・州議会選挙がおこなわれ、インド国民会議が圧勝し、ムスリム連盟が完敗したところである。この選挙をきっかけにジンナーは全インド・ムスリム連盟の立て直しを決意した。一方の国民会議は、ネルーが会議派における指導権を確立し、選挙でのムスリム連盟の完敗をみて、政治勢力としてのムスリムを軽視するような発言をおこなってジンナーの心情を逆なでする結果になった。両勢力の対比が鮮明になっていく時期であり、両者がそれぞれのインド独立イメージを明確化し始める時期といえる。また、(AQEEL||A||901||47)は、ガンディー・ジンナー会談を扱っている。ジンナーとガンディーは、1920年のインド国民会議の年次大会でヒラーファト運動をめぐって対立し、ジンナーが国民会議を脱退して以来、対立的であったが、それでもおりにふれて対話の努力を続けていた。ジンナーは、宗教を政治と切り離して考えるという強い信念をもち、ムスリムは自決権を持つネーションであるという立場をとったことであった。自決権を持つネーションという主張が、即分離国家要求を意味するかどうかは異論のあるところであるが、この44年の会談は、ジンナーとガンディーの最後の対話の機会となった。

Prof. Mohammad Barakatullah(Maulavie) of Bhopal, India, *The Khilafet* (刊行年は不明 Foreword の日付は 1924 年。ラーホールでのリプリント版) (AQEEL||A||804||17) はヒラーファット運動当時書かれた解説書。H. L. Seth, *Red Fugitives*, 3rd rev. & enl. ed., M.A. Indian Printing Works, Lahore, 1946

(AQEEL||A||702||17) は、ヒンドゥーの農民運動、社会主義運動の指導者を紹介する著作で、収集者の細部にわたる目配りがあらわれている。

独立前後のパンフレット類

K.T. Shah, *Why Pakistan? and why not?: being a Socratic discussion on the ethics, economics, and politics of the proposal for Pakistan*, Pratibha Publications, 1944 (Pratibha publication; no.3) (AQEEL||A||908||17)

Z. A. Suleri, *Hindustan or Pakistan India : partition or unity*. Ilami Markaz, 194-. (AQEEL||A||908||21)

The road to peace and Pakistan / by Ziauddin Ahmad Suleri. -- Sh. Muhammad Ashraf, 1945. (AQEEL||A||908||20)

S. M. Sabih "Ye Muslems of Pakistan" : plan for the reconstruction of Pakistan with 85 suggestions, 1947. (AQEEL||A||908||18)

パキスタンは、インド・ムスリムが一致して明確な目的をもった分離運動の末に誕生したわけではない。英領インドでは、ムスリムが多数を占める地域と少数である地域とのあいだに利害の不一致があった。それはおもに、信徒共同体としての利害と地域ごとの利害の不一致に起因した。ムスリムはひとつのネーションであるから一つの国家が必要である、という主張は実はごく一部のものではあった。したがって、独立前後から、「パキスタン」とは何かをめぐる様々な議論があった。上記4点の分類番号の前後にまとめられた冊子群は、そのような議論の例である。なにをめぐって分離独立を要求するのか、分離独立直前の当時の未整理な議論に触れることができる。

Syed Sharifuddin Pirzada, *Foundations of Pakistan : All-India Muslim League documents, 1906-1947 / 1.* National Pub. House, 1969 (AQEEL||A||609||11)

Syed Sharifuddin Pirzada, *Foundations of Pakistan : All-India Muslim League documents, 1906-1947 / Edited by; 2.* National Pub. House, 1969. (AQEEL||A||609||12)

この2巻本は、全インド・ムスリム連盟の年次大会の記録であり、インド・ムスリム運動史研究の基本文献のひとつといえる。編者のPirzadaは、全インド・ムスリム連盟の党员で、独立後はアユーブ・ハーン政権で外相、ズィアー・ウル・ハク政権で司法長官、ムシャッラフ大統領の主席顧問などを務めた法律家、政治家である。

Sharif al-Mujahid, *Muslim League documents, 1900-1947 / ; v. 1. -- Quaid-i-Azam Academy, 1990. -- (Documentation series (Pakistan) ; 4).* (AQEEL||A||609||13) もムスリム連盟の記録で、1990年に始まったQuaid-i-Azam Academyによるジンナー関連の文書の包括的刊行の一として出版された。収蔵されているのは第一巻のみのため、1900-1908年にとどまるが、1906年創立のムスリム連盟の結成前史

を見ることができる。

آریہ سماج کی تاریخ : ابتدائی اصول, سرگرمیاں اور بانی کی مختصر سوانح / مصنف, لالہ لاجپت رائے ; نظر ثانی اضافہ و ۱۹۷۷ بتوین, سری رام شرما ; مترجم, کشور سلطان. -- ترقی اردو بورڈ, ۱۹۷۷ (AQEEL||A||609||35)は、Lala Rajpat Rai, *History of Arya Samaj*のウルドゥー語訳である。Rai は、アーリヤ・サマージの指導者としてヒンドゥー教徒をインド国民会議の支持者として糾合し、インド国民会議はやがて反英運動の中心勢力となったことは言うまでもない。

2. ジンナーに関する文献

パキスタンという国は、ジンナーの下にインド・ムスリムが団結して運動を展開し獲得された、というわけではないことはすでに述べた。彼自身のパキスタン（あるいはムスリムのための政治的な単位）へのイメージは曖昧であったし、ジンナーが代表としていわゆるムスリムの名望家層たちから支持されるまでには、困難で長い時間を要した。にもかかわらず最終的に建国の父となりカーイデ・アーザムと呼ばれることになるジンナー自身についての研究は興味が尽きない。以下に見るとおり、アキール文庫はジンナーの書簡集を多数所蔵している。これらの史料が国内で参照可能になったことで、本邦においてもジンナー研究がいつそう進捗することが期待される。

まず Pirzada 編のジンナー書簡集がある。

Syed Sharifuddin Pirzada, *Quaid-e-Azam Jinnah's correspondence* 2nd rev. ed. Guild Publishing House, 1966. (AQEEL||A||901||1)

同じ編者により 1943 年、1966 年、1977 年と三度にわたってジンナー書簡集が刊行されているが、アキール文庫にはそのうち 1966 年版と 1977 年版が含まれている。1977 年版は 1966 年版を拡充したものである。年代は 1918 年から独立後の 1948 年までをカバーし、書簡の相手は各地のムスリム指導者、ヒンドゥー指導者、藩王、総督を含むイギリス人など多岐にわたる。ジンナーは日記や回想録の類いをほとんど残していない。編者は前書きに、手紙には時に演説よりもその人物が現れると書いているが、書簡は「ヒンドゥーとムスリムの統合の大使」と呼ばれた 1910 年代から、「パキスタン建国の父」となるまでの、ジンナーの政治的、思想的軌跡、あるいは人的交流を知るうえで、興味深い史料といえよう。この他、1900 年代の書簡が含まれる Ahmed Saeed, *Quaid-i-Azam Mohammad Ali Jinnah, a Bunch of rare Lettres* (AQEEL||A||801||31) や、Mohammad Umar ed., *Quaid-i-Azam Mohammad Ali Jinnah Rare Speeches 1910-1918* (AQEEL||A||802||16) など、会議派時代の書簡を集めたものから亡くなる 1948 年まで、本文庫で網羅的に見ることができる。

また、ヒラーファット運動期を含むイラン、トルコに関する内容が含まれるジンナーの書簡をあつめた Atique Zafri Sheikh, *Quaid-i-Azam, Iran and Turkey, selected Documents*, RCD Cultural Institute, Islamabad, 1981 (AQEEL||A||801||6)や、Mehrunnisa Ali ed., *Jinnah on World Affairs Selected Document 1908-1949*, Pakistan Study Center, Univ. Karachi, 2007 Pakistan (AQEEL||A||901||70)などには、第一次大戦前後の国際情勢にかんするジンナーの認識が示さ

れ、後年の二民族論が生まれる背景を知る上でも重要である。

ジンナーの演説や書簡はほとんど英語で書かれているが、それらのウルドゥー語訳をあつめたものも、以下に見ることができる。

Maswarat Quaid-i-Azam, taqarir, xitab, (AQEEL|A|801|14)

(حيات قائد اعظم : چند نئے پہلو / احمد سعید۔ -- قومی کمیشن برائے تحقیق تاریخ و ثقافت، ۱۹۷۸۔ -- (سوانحی سلسلہ : نمبر ۳

(AQEEL|A|801|26)

Quaid-i-Azam taqireen 1935-1945 (AQEEL|A|802|20)

Said Qaim Husain Jafri, S A Bukhari (murattaba), *Xutut Quaid-i-Azam Muhammad Ali Jinnah* (AQEEL|A|802|35)

Hector Bolitho, *Jinnah: Creator of Pakistan*, (John Murray, 1st pub.1954), Civil and Military Press, Karachi, 1966 (AQEEL|A|802|23)は、ジンナーの公式の伝記とされるもので、ジンナー研究の基本文献の一つである。また Zahir Siddique によるそのウルドゥー訳 *پاکستان: جناح محمد علی* 1976 (AQEEL|A|802|40) も見ることができる。

さらに、ジンナーの生誕 100 周年にあたる 1976 年に、多くのジンナー記念論集が刊行されている。一部を以下にあげる。いずれも国父ジンナーを称揚する性格のものであり、ジンナー研究の史料としてよりむしろ、1970-80 年代のパキスタン・ナショナリズムを研究する上で興味深いようにも思われる。

(قائد اعظم نمبر / ایڈیٹر، سید متین حیدر جعفری (اردو)، خالد پرویز (پنجابی)۔ -- گورنمنٹ ایم۔ اے۔ او کالج، ۱۹۷۶۔ -- (قرا : جلد ۲، شماره ۱

(AQEEL|A|901|22)

قائد اعظم نمبر / مدیر، نواز کاوش ; نائب مدیران، وقار عزیز صدیقی، محمد اکرم ملک۔ -- گورنمنٹ ایس۔ ای۔ کالج، ۱۹۷۶۔ -- (نخلستان ادب ; شماره سنہ ۱۹۷۶ء

(AQEEL|A|901|82)

(قائد اعظم نمبر / ایڈیٹر، سید متین حیدر جعفری (اردو)، خالد پرویز (پنجابی)۔ -- گورنمنٹ ایم۔ اے۔ او کالج، ۱۹۷۶۔ -- (قرا : جلد ۲، شماره ۱

(AQEEL|A|901|22)

Papers presented at the International Congress on Quaid-i-Azam, 19-25 December 1976:v.1-v.5.- Quaid-i-Azam University, 1976. (AQEEL|A|703|13-17)

また、以下のような、同時期に刊行されたジンナーに関する文献目録も収蔵されている。

Quaid-e-Azam Jinnah : a selected bibliography / Prepared by Muhammad Anwar. -- National Pub. House, 1970. (AQEEL|A|901|10)

その他、 *Visitors of the Quaid-i-Azam, 1942-1947 / by Ahmed Saeed.* -- 1st ed. -- Bazm-e-Iqbal, 1989. (AQEEL|A|802|6) は、ジンナーが誰に会ったか、新聞記事から拾った記録である。

Quaid-i-Azam ke 72 saal (AQEEL|A|801|15) は、一年一章でジンナー72年の生涯を72章で綴る。

3. 各地のムスリム指導者たち

Chaudhry Khariquzzaman, Pathway to Pakistan, Longman, Lahore, 1961

(AQEEL||A||903||16)は、連合州出身のムスリム連盟初代総裁の回想録である。また、同じ著者による *Shahrah-yi Pakistan* (AQEEL||A||1105||31) は、ウルドゥー語の自伝である。この著者や、ベンガルのスフラワルディなど、ムスリム多数派地域のムスリム指導者たちは一般に、二民族論について、インド・ムスリムを分断しかねない考え方として批判的な立場を取った。

پنجاب کی کہانی قائد اعظم کی زبانی : ۱۹۳۶ء تا ۱۳ اگست ۱۹۴۷ء / مرتبہ محمد حنیف شاہد۔ -- سنگ میل پبلیکیشنز، ۱۹۷۶
(AQEEL||A||802||39) 「パンジャーブの物語、ジンナーのことは」

1930年代後半のムスリム州との関係は、ジンナーを深く悩ませた。このころ、中央でインド・ムスリムを代表してその利益のために動こうと、パンジャーブ、ベンガル、スィンド、北西辺境の各地を訪れたジンナーに、ムスリム指導者たちは冷淡であった。中央にいるジンナーの論理と、ムスリム多数派州の既得権を守ろうとする名望家たちとの間の齟齬は、ジンナーに一度は絶望感を与えるが、そこから彼の大衆化への試みが開始される。パンジャーブはその主要な舞台であり、劇的な歴史の展開があった。

Enamul Haque, Nawab Bahadur Abdul Latif, His Writings and Related Documents, Samudra Prokashani, Dacca, 1968 (AQEEL||A||903||19)

ベンガルのムスリム近代化運動の初期の指導者であったアブドゥル・ラティーフの著作集である。アブドゥル・ラティーフは19世紀のベンガルの社会改革者であり、とくにムスリム青年に近代教育を受けさせることを提唱した先駆的教育者であった。ムスリムの近代教育については、1875年にアリーガルにムハンマダン・アングロ・オリエンタル・カレッジを創設した、サイヤド・アフマド・ハーンが知られているが、それより早い1863年にアブドゥル・ラティーフがベンガルに設立したムスリム文芸協会は、全インドのムスリムの近代化の端緒となった。

Waheed Ahmad ed., Diary and Notes of Mian Fazl-i-Husain, Research Society of Pakistan, University of Punjab, 1977 (AQEEL||A||902||13)

Fazl-i-Husain : a political biography / by Azim Husain ; with a foreword by C. Rajagopalachariar. -- Longmans, Green & co., 1946. (AQEEL||A||804||4)

パンジャーブ州の政治家であり連合党の重鎮であったファズリー・フセインの著作と、彼の伝記である。伝記の著者 Azim Husain は息子である。ファズリー・フセインは、パンジャーブにおいてムスリムのみならずヒンドゥーやシークからも支持される政治家で、1936年に死去するまで、連合党の党首として州内閣を担った。彼は、インド・ムスリム全体の代弁者であろうとしたジンナーやムスリム連盟がパンジャーブの政治に干渉することを嫌った。彼の死後、後を継いだスィカンドル・ハヤート・ハーンもその路線を踏襲し、ジンナーがパンジャーブのムスリムから中央におけ

る交渉権をゆだねられるのは、そのあとのヒズル・ティーワーナーの時代を待たねばならなかった。ファズリー・フセインのジンナーに対する強い不信感をみると、当時のインド・ムスリムの世界にジンナーのような存在がいかにか大きな違和感をもたらしたかを知ることができる。パキスタン独立史が大きく転換する前夜、インド・ムスリムの心情を、この2冊は教えてくれる。ヒズル・ティーワーナー研究としては、Ian Talbot, Khizr Tiwana, *the Punjab Unionist Party and the partition of India* / -- Curzon, 1996. (AQEEL||A||901||43)がある。著者は分離独立史およびパキスタン政治の研究で知られ、近年はパンジャブの政治についての著作を発表している。

「辺境のガンディー」として知られるハーン・アブドゥルガッファル・ハーンの著作、Khan 'Abdulghaffar Khan: Khvud navisht savanih-i hayat, (AQEEL||A||903||29)は、1969年に、インドのアンドラ・プラデーシュ州ハイダラーバードで刊行された。出版の経緯については不明ながら、ジンナーやムスリ連盟、さらにパキスタン構想には懐疑的で、インド国民会議の支持者であったガッファルハーンの著作が、独立後のデカンのムスリム都市で出版されたことは特筆すべきかと思われる。